

## 月報

&lt;455号&gt;

ケルン・ボン日本語  
キリスト教会  
二〇二二年八月三〇日

「よい耳」

佐々木 良子

真っ青な空にくっきりとした白い雲は、神様から頂いた夏の恵みそのものです。この幸福感に浸ることが出来るのも、あとどれ位でしょうか。最近、朝夕は肌寒さを感じ、季節は秋へと移行し始めています。今年は昨年とは違って変わり、様々な面で活動的になった為か、時の流れがいつも増して速く感じています。

前号では、一月から教会の方々と一緒に「聖書通読日課表」を用いて、一年間で聖書通読を始めたことをご紹介します。神様の御言葉を教会の方々と一緒に聞き取る恵みが与えられていることを嬉しく思い、又、毎日、同じ箇所を共に読んでいることに力を頂いています。このような私たちの群れをイエス様はご覧になって、エールを送ってくださっているような気がしています。

ある時、「一緒に聖書通読されている方が、「毎日聖書は読んでくれるけれども、イエス様が語られた種時きの譬え話からすると、私はいったいどのタイプかしら。」と、仰いました。

—マタイによる福音書 十三章一〜九節—

「イエスはたとえを用いて彼らに多くのことを語られた『種を蒔く人が種時きに出て行った。時いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために

枯れてしまった。ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれをふさいでしまった。ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい。』」

種を蒔く人とは、イエス様です。種は神の御言葉で、土地はそれを聞いて受け止める私たちの心の状態を表しています。そして、イエス様は、御言葉が落ちる土地の状態について、「道端」「石だらけ」「茨の中」「良い土地」の四種類に分類されて語られたのです。

当時の種時きは、種をつかんで畑の上に適当にばらまいたり、穴のあいた種袋を口バなどに背わせる等、種を蒔いてから少し耕します。すると種が若干土で覆われます。それで終わりです。適当にばらまきますから、勿論、道の上にも落ちることもあります。ですからどこに落ちるのか全く分からないのです。

そうすると、私はどのタイプだろうかと考えてしまうのです。しかし私たちは時には、「道端」であり、「石だらけ」で、或いは「茨の中」で、また「良い土地」の時もあるのです。

御言葉が蒔かれても、聞けない時もあります。聞いても根付かない時、誘惑に惑わされる時もあります。そのような中でも、実を結ぶこともあるのです。全て当てはまる私たちです。

大切なことは、自分がどの土地なのか判断して吟味することではなく、私たちにいつも御言葉が蒔かれている事に心を留めて、それを聞く耳を持つ者となることです。

「聞く耳」は、自分自身で鍛えたり、備えたりするものではありません。残念ながら私たちは生まれつきの耳では、イエス様の御言葉をお聞きす

ることはできないのです。

イエス様と向き合い、関わり続けていく中で、少しずつ備えられていきます。イエス様の元に留まり続けることによって、イエス様の御声を聞く事ができる耳が与えられるのです。

そうして、農夫が土地を耕し、石をどけ、茨を切っていくように、イエス様御自身が種を蒔いて、私たちを良い土地にする為に働いてくださいます。たとえ、今が石地であろうと、心に突き刺さる茨があろうと、イエス様は良い土地へと変えて、実りを与えてくださいます。私たちはその事を信じて、豊かな命の実りを与えてくださる御言葉に与り続けてゆく者とさせて頂きたいです。

私たち自身の生き方も、教会も、御言葉の力によって変えられていく事に期待しています。そして、ケルン・ボン日本語キリスト教会が100倍の実を結ぶ教会となるように祈りながら前進できたら何と幸いなことでしょうか。

今年も残り四カ月となり、聖書通読もすこしずつゴールが見えてきたように思います。これからも皆様と一緒にイエス様の周りに座り、与えてくださる御言葉に熱心に与り続けたいと願うものです。

「呼ばれています」

讚美歌五四年度版・第一篇八三番

呼ばれています

いつも 聞こえていますか

いつもはるかな とおい声だから

よい耳を よい耳をもなければ。

小塩節(たかし)先生のこと

藤井弘子



神は激しい痛みから小塩節先生を解放し、ご自分の許にお召しになった。九一歳であった。

小塩節先生とケルン・ボン日本語キリスト教会との関係は一九八五〜一九八八年、先生が駐西ドイツ日本大使館公使ケルン日本文化会館館長として来独されてから始まる。

先生は超ご多忙の中、日独交流のため、日独交流のため、に時間の許す限り、頼まれれば遠近を問わずドイツ語の講演に出掛けられたが、聖日を重んじられ、努めて礼拝に出席された。日独礼拝でのお奨め、伝道集会での証言、そしてクリスマスには聖誕劇にも出演して下さった。

礼拝での賛美は声量豊かなバリトン、礼拝後の軽食、お茶の時に聞こえて来る、心から愉快そうな笑い声が節先生の思い出。単身赴任で外食が多かったであろう、持ち寄りの食事を実に美味しく、でも遠慮がちに食べておられた。

節先生と、ご来独中のトシ子先生に日本語レストランでウドンをご馳走になった折、その頃塩分摂取を制限しておられた節先生がこっそりウドンのお汁を吸おうとされるのを隣席のトシ子先生が気付かれ、「アナタ」と小声で仰った時の、イタズラを見つけたら幼い子供のようにコックリ顔かれて無言のまま箸を動かして居られた様子が可笑しくも懐かしい。節先生とトシ子先生はとも仲良しで、素敵なカップルのお手本であっ

た。

節先生が実行しておられて私には全く真似の出来ない事が少なくともふたつ。

その一、何処に居られても毎日必ず一度電話を奥様に入れる、または手紙を書く。

その二、受け取った手紙の返事や礼状を直ぐに書く(「Jetzt oder Nie」、「今書かなければ永久に書か(け)ない」)

節先生は、四〇年近い間、ケルン・ボン教会が存亡の危機に瀕していた時にも困難を共に担い、支えて下さった。正に主にある「兄弟姉妹」のお交わりだった。

ドイツの文学、というよりドイツの全てを愛された節先生は、年に一度はドイツを訪ねる、という目標を立てられ、健康を崩されてもその目標を目指して療養に努められた。実際に節先生は病を押して来独された時でもドイツに入られると見えるほど元気になることが常であった。

森の木の実はジャムや、Rapunzel (Feldsalatの別称)が好物で、後者については毎年ご自宅の庭で種を蒔き、収穫して居られた。ドイツの樹木、豆やジャガイモ、梨やリンゴの話と共にする仲間がおられなくなった。



2017年年7月2日にご夫妻でドイツにいらしたのが最後となりました。先生、また会う日まで!!

沖縄祖国復帰五〇周年記念に際して

外間久美子

沖縄祖国復帰五〇周年記念式典を五月一日日ライプで観ることができた。あれから半世紀経ったのかと感慨深い。私はその年に高校を卒業、琉球政府立那覇高校最後の卒業生である。

小学校、中学校、高校と私の周りはいつも祖国復帰運動が渦巻いていた。母がデモに行く時、無事に怪我せずに帰ってきて欲しいと思い、高校生になってからは何度かデモに参加した。警察官の目の前で住民が米兵に殺されても犯人を捕まえることは許されず、公然と無罪になって米国へ帰される。日本国憲法の元に人権を守りたいと思った。

私たちは祖国復帰の年まで国籍もなかった。本土へ渡るときは、琉球列島米国民政府高等弁務官の発行する特別なパスポートを申請しなければいけなかった。そこには日本人でなく琉球住人と記載されていた。それは本土渡航のみで、復帰運動活動家には発行されなかった。私もそのパスポートを持って音大受験のために晴海埠頭(東京)に向かった。大学一年の夏休みにパスポートなしで帰省した時、はじめて復帰できたことを実感した。しかし、あれほど祖国復帰運動をしていたはずなのに、東京に出て初めて本土の方達に何も伝わっていなかったこと、無関心さにショックを受けたことが、今また蘇ってくる。復帰して何が変わったか・・・

確かに、日本国憲法の元に日本人として人権を与えられたことは大きい。しかし、米軍基地問題は依然として大きいのかかかっているところか、最新巨大基地の建設が着々と進んでいる。不穏な世界情勢の中、また沖縄が犠牲になることは目に見えていて住民は怯えている。式典を観ながら、沸々と湧き上がる感情を抑えるのがやっとならなかつた。



ヨーロッパ・キリスト者の集いに参加して

西宮一麦教会・牧師 橋本いずみ



第三九回ヨーロッパキリスト者の集いが八月四日〜七日にシュトゥットガルト郊外にあるキリスト教の施設で行われました。約一六〇名の参加者に加えて、オンラインで参加していた方もいたそうです。コロナ以前は、三〇〇名を超える参加者がいたようなので、今回は少なかつたのだと思いますが、欧州の各地と私のように日本からの参加者も加えられ、一つに集まって、主の御言葉を聞き、賛美をささげ、主にある交わりを与えられたことに感謝しています。

私は、今回初めて参加させていただきましたがこの集いで一番魅力的だと感じたのは、色々な世代の人たちが参加していたということです。日本でも、様々な集会に参加してきましたが、子ども、中高生、青年、婦人、壮年と年代別に分かれており、教会に集っている方々が一緒に参加できる集いや修養会は経験したことがありませんでした。しかも、他の世代と比べると少数の子どもたちや中高生に特別なプログラムが用意されており、彼らの姿を他の参加者たちも見ることができたことです。

もう一つは、求道者が参加していることでした。わたしが知っているだけでも、名前の求道者、そして、まだ洗礼を受けていない子どもや中高生たちがいました。ある人の信仰の芽生える時に立ち会うことができるのは、この集いの魅力の一つだと思います。



欧州キリスト者の集いに参加している一つの群れは、大きくて数十人、十名程度のところもあるようなので、キリストの体なる教会の大きさや広がりを経験し、その中で、主との出会いが与えられるのは、とても素敵なことだと感じました。

そして、わたしにとって一番大きな恵みだったのは、スモールグループです。スモールグループは年代男女別で、分けられており、わたしのグループは五人でした。主との出会いを語り、集いで受け取った御言葉を分かち合い、今負っている課題を祈り合い四日間を過ごしました。

家族で欧州に來たばかりの友、もうすぐ日本に帰国することになっている友、キリストにしっかりと結ばれて子育てをしている友、日本での伝道に召されて準備をしている外国籍の友。彼女たちとの出会いと祈りの時間は、わたしにとって大きな慰めとなりました。

今回の主題は、「キリストにある自由」(ガラテヤの信徒への手紙五章一三節)でした。御言葉を通して、キリストによってあらゆることから自由にしていただき、キリストに結び合わせられていてキリストの者とされている平安と恵みを改めて教えられ、感謝でした。

キリスト受難劇 —Passionsspiele—

オーバーアマガウにて 佐々木良子

ドイツ・バイエルン州のガルミッシュ・パルテンキルヒェン郡にあるのどかな小さな村で一〇年に一度、村人による受難劇が行われています。

本来二〇二〇年に行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染により、二年延期されてやっと今年の五月一四日(土)から一〇月二日(日)迄上演されています。

各講演のビデオを集いのHPにアップロードしてあります。よろしかったらご覧ください <https://www.europetsudoi.net>



ミュンヘン日本語教会のH先生のドイツ人の友人のBさんが、ガルミッシュの村に住んでおられるので宿泊させて頂き、ヨーロッパ・キリスト者の集いの後、Bさん、H先生、日本からいらした橋本先生と私との四人で受難劇を見に行き、参りました。この時にドイツに住んでいたこと、そして、周りの方々のご親切によってこのような貴重な機会が与えられたことを感謝しています。

受難劇が行われるきっかけは、一六三三年、この村にペストが猛威を振るい、村人六〇〇人中、一〇〇人が犠牲になったことからです。「もし村を守ってくれたらイエス・キリストの受難劇を上演する」と、敬虔なカトリック信者たちが神様に誓いを立てたことから始まりました。

そうしてオーバーアマガウは難を逃れ、村人たちは誓いを守り、四〇〇年に亘ってキリスト受難劇が演じられ続け、信仰と神への感謝を表しています。

舞台上立つ全ての役者はプロの俳優ではな



く、オーバーアマガウ在住の村人であることが条件です。因みに出演を願ひ移住したとしても、二〇年以上の居住が必要とのこと。あくまでもそこに在住しておられる「村人」というこだわりを強く感じます。

受難劇は二部構成で、途中休憩が三時間入り、上映時間は計五時間という大作です。演劇の場面の合間にコーラスが入ります。独唱者はプロの声楽家だそうですが、聖歌隊のメンバーは村人で、とても感動的な歌声が響き渡っていました。

また別場面では、旧約聖書の様々な箇所を村人が微動だにせず、それぞれのポーズを取り続けて絵画を思わせる聖書場面は圧巻でした。舞台美術が様々な方法で入れ替わり、壮大なスケールで物は進んでいきました。

年ごとに、監督や役者の解釈によって演技は変わってくるようです。宿泊させて頂いたBさんは二〇一〇年もご覧になり、一〇年前のイエス様は物静かな感じだったそうですが、今年のイエス様は力強さが全面的に出ていたと語っておられました。そのような変化を比べながら観ることができるとも魅力の一つのように思いました。恐らく二〇三〇年もまた違ったイエス様のご受難を観ることでしょう。

処刑を求めユダヤ人の群衆の叫びと、イエス様の苦悩もさることながらイスカリオテのユダの苦悩がかなり長い時間を費やしていたことが印象的でした。世界中からこの場に集まり、十字架を見上げ、ご受難と一緒に覚えるこの劇がこれからは、感概深いものがあります。



### バザーのご案内 十一月一日(火・祝日) 午後二時より

会場 ポンハッファー教会(当教会の礼拝場所)  
内容 蚤の市 古本

※ 毎年、会堂にて日本食を提供していましたが、二〇一九年を以って終了いたしました。お土産用の日本食を少し予定しています。

※ ご家庭でお使いになっていない品物(衣類を除く)がありましたら、ご協力お願いいたします。詳細は、直接教会にお問合せください。尚、コロナ感染拡大状況によっては中止となることもあります。ホームページをご覧ください。

### ◇ 報 告 ◇

◇ 五月から第二・第四日曜日は会堂での礼拝を再開しました。(オンライン同時配信)

◇ スイス在住の姉妹とのオンラインによる交わりが始まり、受洗準備をしています。

◇ 五月一二日、小塩節氏(九一歳・ドイツ文学者)が召されました。私たちの教会を陰で長い間お支えくださいました。

◇ 五月二九日、ミュンヘン日本語教会・井野葉由美牧師就任式に佐々木良子牧師が出席しました。

◇ 六月三日・ペンテコステ礼拝にて、会堂での聖餐式を二年振りに執り行うことができました。

◇ 定期的に第三日曜日の子どもの礼拝・主日礼拝の演奏にブリュッセル日本語教会の瀧川真理子姉に加わって頂くことになりました。

◇ 六月一九日、礼拝後一五時三〇分〜一六時三〇分スカイプにて第二回目の懇談会を開きました。

◇ 六月二六日、南吉衛牧師が召されました。一九九三年から五年間、牧会・伝道にご尽力頂きました。

◇ 八月一三日(土) TAUFFEST: Gemeinsan am Röhrl (ケルン州教会・合同洗礼式)に、佐々木良子とシュミット亜弥子姉、橋本いずみ牧師が参加しました。

◇ 八月一四日、二八日の礼拝は、西宮一麦教会牧師・橋本いずみ先生が説教のご奉仕を担ってくださいました。

### ◇ 編集後記 ◇

ドイツ鉄道は、六月〜八月迄、特急以外の電車です、ドイツ全土を利用できる、九ユーロ切符の販売をし、大勢の方が便利に活用しました。反面、電車運行の混乱が続き、日曜日に教会にお出でになれない方もおられ、良いことばかりではなかったように感じています。何事にも正反があるものだとしみじみ思うものです。九月には、ドイツの鉄道が落ち着くことに期待したいです。(佐々木良子)

### ～諸集会について～

礼拝 第1・3・5日曜日 14時～ (スカイプ)

第2・4日曜日 教会にて(スカイプ同時配信)

子どもの礼拝 (スカイプ)

第3日曜日 13時30分～50分

聖書の学び会 (スカイプのみ)

毎水曜日 10時

ママの子育ての学び会読書会

変動的ですので、牧師までお問い合わせ下さい。随時、HPでご確認ください。

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会  
Japanische Evangelische Gemeinde  
Köln-Bonn e.V.

### 〈主日公同礼拝〉

会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche  
住所: An der Decksteiner Mühle 1  
50935 Köln (Lindenthal), Germany  
電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)  
時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00

〈牧師〉 佐々木良子 (Pfr' Ryoko SASAKI)  
牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln  
固定電話: 02234-9298792  
携帯電話: 0151-2910 6278  
Email: r310130s@yahoo.co.jp

### 〈ホームページ〉

http://koelnbonn.jp

### 〈振込口座〉

IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38  
BIC: PBNKDEFF